

関連項目：教育活動プラン①

いいとこみつけカードを活用して、児童の自己有用感を高める

目的

本校では、年2回行う「楽しい学校・学級づくりアンケート」において、学校生活に対する児童の満足度が年々上昇しています。しかし、係活動などを努力している割には「感謝された経験」など、「自己有用感」に反映されていません。そこで、教職員が協働しながら、目立ちにくい児童が自分自身のがんばりに気づいたり、再認識できたりする機会を意図的に作ることで、自尊感情の醸成につながると考え、この取組を実施することにしました。

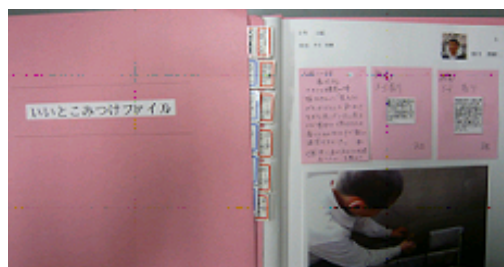
内容

● 取組のポイントについて

この取組のポイントは、いわゆる「中間層」の子どもに対してきちんと評価活動を行い、見落とし児童を無くすことです。担任や指導者は、学力の高い児童やリーダー性の高い児童については、その能力に対する正当な評価をし易いです。また、学力面や生徒指導面で課題のある児童についても、その子の自尊感情が少しでも高まるように、あらゆる教育活動を通してその子のよさを懸命に見つけようとしています。しかし、あまり目立たない子については、その子の努力やがんばりを見落とし、きちんとした評価がされていないことも少なくありませんでした。そこで、担任していない同じ学年の児童に対し、その子がすばらしい行動や努力を行った時に、その行動と行動の価値についてカード（付箋紙）に記録し、その子の担任の先生に知らせるようにしています。

● カードの活用方法について

記録されたカードは、児童の担任に渡されます。担任はカードを専用のファイルに保存していきます。ファイルには児童1人につき1枚のA4用紙が綴じてあり、該当する児童の用紙にカードを貼ります。カードに記載してある内容を、学活などの時間を使って紹介したり、個人的に児童を指導する際に、直接伝えたりします。「〇〇先生があなたのこんなところを素晴らしいとおっしゃっていた。」と児童に伝えることで、児童自身に自信が芽生えるだけでなく、きちんと評価されたことに対する喜びを感じられます。またカードをファイルに保存することで、カードがたくさん貼られている児童とそうでない児童が現れます。担任はその結果を参考にして、カードが貼られていない児童のよさを注意深く探ろうとするので、目立たない児童がきちんと評価される機会を増やすことにもつながります。



ファイルとカード（付箋紙）

カードが貼られていない児童のよさを注意深く探ろうとするので、目立たない児童がきちんと評価される機会を増やすことにもつながります。

● 取組の改善について

この取組は12月に入ってから実施されています。開始後約一ヶ月間を「お試し期間」としてとらえ1月末には職員間でこの取組の効果や問題点を交流しました。「子どものよさを見つけようとする意識が今まで以上にある。」という意見が多く出された反面、「カードに書く時間がかかる。」や「(いいところ)を見つけようとしても見つからないことが多い。」などの困難点も出されており、改善方法を見いだそうとしているところです。

成果

「楽しい学校・学級づくりアンケート」の質問項目で「有用感の経験」について、「ある・ときどきある」に回答した児童は（7月・66% 12月・77%）で11ポイントの上昇が見られました。この取組を開始して1ヶ月余りですが、「自分は誰かの役に立っている。」「努力したことがきちんと認められている。」と感じている児童が増えていると言えます。来年度に向け、上記の困難点を職員で協議し、改善しながら、子どもたち一人一人が「頑張ってたかった。」「努力することがすばらしい。」と思える風土を築いていきたいと考えます。

成果